

## ロシアとアメリカ：創造刷新と保守自壊：

——目先の浅い判断で国の舵をとり誤るな

Greatchain

July 16, 2022

サイト Information Clearing House の冒頭には、かならず、2001 年以来、アメリカの戦争によって起こった殺戮の死者数が掲げられている。しかし地球全体ではなく、イラクとアフガニスタンがその例として示され、第2代米大統領ジョン・アダムズの「自由は、人民の間のおよその知識なしには、保全することができない」という言葉が紹介されている。

それによると——「アメリカの、戦争とイラクの占領によって虐殺されたイラク人の数= **1,455,590**、アメリカの、戦争とイラクの占領によって犠牲になった米軍関係者の（公的に認定された）数= **4,801**、アフガニスタンで虐殺された国際占領軍兵士の数= **3,487**」…となっている。

このわずか4桁の、アメリカとその同盟国兵士の死亡者に対し、140 数万というイラク人犠牲者は、アメリカに刃向かったか、邪魔だったかの理由で、人間以下のものとして殺された人々である。これを、我々のほとんどが知らないのは、CIA というマフィアのような統制機関が、これを圧殺したからである。そして我々は、アメリカが世界で唯一の正義の執行機関だと信じて、サダム・フセインが殺されたとき、これはよいことだと思った。リビアのカダフィ大佐が殺されたときも同じだった。シリアで大量虐殺があったときも、アメリカを信じた。

このアメリカの帝国主義は、世界中の人間を殺すか服従させて、その上に天国のような世界政府（One World Government）を築こうとする、狂気のシロモノだが、それを狂気とも異常とも感じない者たちがいる。世界制覇は、人を武力で制圧した者だけに与えられるものだという思い込みが、何百年も何千年も続いてきた。そう考えるものが、今この時代にもいる。**人類愛**とか**宇宙愛**とかいうものの、世界改造の可能性を、想像することさえできない者は欠陥人間である。「愛」などというのは、間抜けの宗教家の言うことで、そんなものは信用したらひどい目に遭う、とこの者たちは考えている。これは本当にそうか？

そこで、この者たちが「絶対に許さない」と言っている、プーチンの言葉を考えてみよう。彼が「西側が我々を戦場で負かすつもりなら、やってみよ。我々はまだ本気で何も始めて

いない」と言った意味は、「我々の果たすべき最終的な仕事は、この基本的に間違っただ世界の大転換・大革命だ」ということである。それは数千年も前から、この地球の永遠の課題となっている仕事である。「多極世界へのシフトの始まりは、ロシアが先鞭をつけたもので、このプロセスは（始まったら）止めることができない」と、彼は言っている。

プーチンの心の中にあるのは、祖国愛である。彼は、自分の預かった祖国に対する責任を感じている。すなわち、ロシアの魂を人に譲り渡すことだけはできない、と言っているのである。「お前の魂など大したものでない、譲れ譲れ」と、祖国というものをもたないグローバリストは言っている。そこが決定的な違いである。そう言われたときの気持を想像してみるがよい。プーチンは基本的にそう言われているのである。そして彼は、各国々に同じことを要求している。日本に対しては、日本人の誇り、大和魂を要求している。武士道を要求している。祖国に誇りを持たない者とは付き合わない、と言っている。彼は、自分を大切にできる者でなければ、人を大切にすることはできないことを知っている。これは彼の語録に明らかである。

ウクライナのゼレンスキー大統領は、この腐ったグローバリズムに支配され、ロシアの文学も芸術も追放せよと言いき、ウクライナは「最後の兵に至るまで戦え」とも言っている。このような狂気の者には、ロシアも、まともに相手にすることはできないだろう。ロシアは、領土的野心などという卑小なものをもってはいない。彼らは、遙かにより大きな野心をもっている。少なくともそれが、プーチンの指導する精神である。それは最終的に、アメリカのトランプとの協働によって、達成されるだろうと私は希望的に予測している。

祖国愛というものが進化発展して、人類愛、宇宙愛になる。自分自身を愛することを飛び越して、神を愛することはできない。神と自分とは本来、同じもので、これを「分け<sup>みたま</sup>御霊」と呼ぶのが一番わかり易いと思う。これを分離されたもののように解釈すると、中世のカトリック教会のような、間違っただ「神権政治」になってしまう。

グローバリズムとは、宇宙の創造者が人間に与えた**本来の主権**を、「篡奪する」者、すなわち、暴力によって神から世界を奪い、少数者で山分けしようとする者たちの計画のことである。これが、クルリと裏表を変えるように、変わらなければならない。今、そういう時代の要請が、目に見えるようになってきた。何千年も続いてきた、武力や物力で、人や物を奪い支配することが、間違っただとわかってきた。プーチンの言う、各自が主権を保ちつつ、互いに助け合う精神が、正しいことがわかってきた。この勢いは、彼が言うように、「動き出したら止まらない」のである。[たった今、入った貴重なニュース——「ブレア元英首相が〈西側支配の時代は終りに近づいている〉と言った。]

「ロシアを通じて世界に光が見えてくる」という、エドガー・ケイシーの予言は、本当のことでなければならない。

Information Clearing House に載った、「ワシントンの、反ロシア・グローバル-コンセンサスの推進は、失敗した」という論文の、コメント欄の短い言葉を引用しておく：

「世界人口のほとんどは、死と破壊と強奪と略奪を広めてきたのは、常に、ワシントン・シオニスト・軍国主義の、グローバル帝国だったことを、よく理解している。これに対し、中国とロシアは、協力的な商業関係、インフラストラクチャの建設、交通、ビジネス中心地（ハブ）などに熱意をもっている。」

「アメリカは、世界の大多数の大衆の目に、いかなる信頼をも失ってしまった。アメリカが、腐敗したリーダーたちに、どんなに買収とゆすりをかけても、世界は今、完全にアメリカが、道徳的に、精神的に、経済的に失敗した国家であることを知っており、今アメリカは、どんな国より悪質な、危害と破壊を世界中に与えようとしている。ロシアは反対に、最も尊敬すべき、法を守る、成熟した国家と見られている！」

このロシアとアメリカの、上昇と下降、発展と凋落の差は明かに見えている。それでもなお、ロシアを見放して、アメリカと同調する国があるとしたら、それは世界が全く読めないか、何かよからぬ目先の利益を考えているかの、どちらかであろう。いずれにしても、わが国では、ワクチンによる大量被害を含めて、考えられない不吉なことが起こりつつある。

不正、残虐、偽善、ウソ、騙し、隠ぺい、墮落、ジェノサイド、恐喝、恫喝、破壊…思いつくあらゆる悪が、アメリカの犯罪として起こっている。歴史がそういうものを見逃すわけがない。

2016年、トランプ大統領が就任したとき、彼は「今この瞬間、この国の carnage (虐殺)は終わる」と言った。今、バイデン政権は、1月6日の米議会議事堂の暴動をトランプの所業として立証し、最後の手段として、彼の暗殺を狙っていると言われる。

わが国で起こった、「あり得ない」警護の不備から、安倍氏という要人が暗殺されるという事件も、わが国の対ロシア関係に対する、暗合のように考えられる。

ところで多くの人は、宗教というものを、団体海外旅行のオプション・ツアーか、高校の選択科目のように考えている。まず(科学によって根拠づけられた)現実の世界があり、その上に、あってもなくてもよい宗教があると――。これは間違っている。選択は、有神

論的世界解釈か、無神論かである。そして無神論は、考え得るあらゆる悲惨な結果を招くということである。それが今、我々の目前で、強力に立証されつつある。無神論や唯物論は、人間の知能でなく、人間の無知・無能の証でしかない。

デイヴィド・ウィルコックが、Tim Ray というジャーナリストと対談したとき、ティムが「ところで、あなたの言う神とか、ハイアー・セルフとかいうものは、実在するものなのか？」と訊ねた。デイヴィドは「**それ以外に何か存在する？**」と答えた。